

様式第1号

会議録

会議の名称	第2回 所沢市産業振興ビジョン策定委員会
開催日時	平成28年11月22日(火)10:00~12:00
開催場所	所沢市役所高層棟7F 研修室
出席者の氏名	朝倉はるみ 荻野敏行 河藤佳彦 久野美和子 近藤かおる 千年篤 政所利子
欠席者の氏名	
説明者の職・氏名	
議題	(1) 産業振興ビジョン策定に係る全体スケジュールについて (2) アンケート調査(一次集計)及び分析結果(課題)について (3) 懇談会の開催及び分析結果(課題)について (4) 各業界団体への個別ヒアリングについて (5) 意見交換等 (6) その他
会議資料	資料2-1: 産業振興ビジョン策定に係る全体スケジュールと 策定委員会討議内容 資料2-2: 市内の工業・商業(観光業)・農業事業者に対する アンケート調査結果 概要 資料2-3: 市内産業関連団体との懇談会 結果概要 資料2-4: 各産業団体への個別ヒアリングについて 参考資料1: 所沢市地域産業実態調査(製造業)集計表 参考資料2: 所沢市地域産業実態調査(商業・観光業)集計表 参考資料3: 所沢市地域産業実態調査(農業)集計表 参考資料4: 所沢市産業振興ビジョン策定に係る懇談会 会議録
担当部課名	産業経済部 次長 増田謙二 産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 原田裕之 主査 村田貴紀 主査 板垣昭彦 主任 菅井悠登 主事 佐藤絢 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主任 石山大 主事 田口孔一 産業経済部 農業振興課 課長 三枝恵一 主任 須田芳人 主任 橋本賢治 産業経済部産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
河藤委員長	あいさつ
	<p>議題（1）産業振興ビジョン策定に係る全体スケジュールについて</p> <p>議題（2）アンケート調査（一次集計）及び分析結果（課題）について</p> <p>議題（3）懇談会の開催及び分析結果（課題）について</p> <p>議題（4）各業界団体への個別ヒアリングについて</p>
事務局	資料2-1～2-4に基づき説明。
	議題（5）意見交換
委員	<p>策定委員会は今回が2回目だが、市の産業振興ビジョンの策定という大きなプロジェクトに対して設置されている策定委員会において、市民代表の委員が1名でよいのか。市民代表の委員にかかるプレッシャーが大きいのでは。</p>
委員長	<p>私としては、当策定委員会は、産業振興ビジョンの策定に向け、専門家を中心に少人数で集中的に議論を行う場として設置されたものであり、これを補完するため、アンケート調査やヒアリング調査で市内事業所等の意見を把握しながら策定に向けた検討を進めるという体制だと理解している。</p>
事務局	<p>委員長のご指摘のとおり、当策定委員会は、所沢市の産業振興の進むべき方向性等について、大所高所からご知見・ご意見をいただくことを目的として、有識者を中心とした体制で設置したものである。市民代表の委員の枠は確かに1名と限られてはいたが、公募し、計4名の応募者の中から事業運営のご経験のある方を選出した。</p>
委員	<p>パブリックコメントも実施されると思うので、そこで市民の意見を聞き、反映すればよいと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>まず最初に、資料 2-4 の各業界団体への個別ヒアリングに関して、事務局から諮られている次の 3 つの事項について委員各位のご意見を伺いたい。</p> <p>①質問項目の過不足について</p> <p>資料 2-4 で示されている以外に、今後ヒアリングを行う業界団体に聞いておいた方がよいことがあればご指摘いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>市民にも事業者にも、所沢市が観光地として認識されていないように見受けられる。多くの市民・事業者はその認識を改めてもらうためには、所沢市が観光地であるということをデータで示すことが必要。個別ヒアリングの際には、どういうデータをとれば観光地として PR できるかを聞いてみたらよいのではないか。例えば、もし市が独自に観光客に対するアンケートなどを実施しているのなら、そういう調査を行っていることを知っているか、活用しているかなどを個別ヒアリングの中で聞いてみるとよいのではないか。観光関連の統計は観光庁が共通項目（基準）を設けてデータをとるようになったが、その共通項目だけでは十分ではなく、それだけでは量れない実態もあると思う。どういう実態をデータとして捉えれば市を観光地として PR していけるか聞いてみたらよいのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>確かにそれは重要であり、観光に限った視点ではないだろう。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 2-2 アンケート結果や資料 2-3 懇談会結果を見ると、現場は極めて厳しい状況にあるということがひしひしと伝わってくる。小規模な事業所が多く、経営を取り巻く環境変化があまりにも急激すぎてどう対応しているのかわからない、という状況にあることがうかがえる。</p> <p>そのような激変期にあって各業界団体がどの程度機能しているのか疑問に感じる。特に所沢市のように小規模な事業所が多い地域では、各団体が激変する現場の状況を的確に捉えて、プロデュース役、サポート役として各小規模事業所を支えていく役割が求められるが、所沢市の各団体はそういう役割をどの程度果たしているのか。アンケートに示されたような現場の苦しみを、各団体の上層部がどれだけ把握し、どこまで本気で支えようとしているのか、ぜひ</p>

	<p>聞きだしてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>現場に対する認識と課題、将来の業界の発展に向けた方向性について、各団体の考えを聞いたらどうかというご意見か。</p>
<p>委員</p>	<p>「考え」だけでなく、実際にどう行動しているか、現場に出て動いているのかも聞いてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>業界団体には、それぞれの業界の中で、既存のやり方にとらわれず新しいやり方で成功している、いわば「ニューウェーブ」の事例を紹介してもらったらどうか。成功例だけでなく失敗例でもよい。</p>
<p>委員</p>	<p>成功例・失敗例もちろん大切だが、そういう事例を示して業界全体の底上げを図るよりも、いま頑張っている事業所を積極的・集中的に支援することで、業界を牽引していく存在になってもらう方が大切ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>確かに、アンケートなどで業界全体の概況は把握できたが、では所沢市で何が切り札となるのかを検討するためには、もっと個別・具体的な事例を集めた方がよいだろう。様々な事例を集める中で、これから売りにしていける産業を見いだせるとよいのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>②金融機関へのヒアリングの要否について 次に、各業界団体へのヒアリングの対象に、金融機関を含めるべきか否かについて、お考えがあればご指摘いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>やった方がいいと思う。特にりそな銀行や武蔵野銀行は、近年、地域密着で地元産業を支えようという意識が高い。</p>
<p>委員</p>	<p>事前の意見照会で、地銀協会にヒアリングをしたらどうかという意見を出したが、事務局としては地銀協会ではなく地元の金融機関に対するヒアリングを検討されているとのことであり、その方がより地域に根差した話が聞けると思われるので、それで良いと思う。地方創生の中で地域金融機関の果たす役割は非常に重要であるため、金融機関へのヒアリングは行った方がよいと思う。</p>

委員長	<p>特に小規模事業所にとっては資金繰りが重要な課題であり、資金面でどうサポートするかは産業振興を図る上で不可欠な観点である。特に地域密着型の地元の金融機関は重要な役割を果たすと考えられることから、ぜひヒアリングを行ってほしい。</p>
委員長	<p>③医師会へのヒアリングの要否について 次に、医師会へのヒアリングの要否について、お考えがあればご指摘いただきたい。</p>
委員	<p>医師会へのヒアリングは必須ではないと思う。膨れ上がる医療費により社会保障費が増加し続けるなか、今や病気の人に対するケアも大切であるが、いかに病気を予防するかも重要になっている。</p> <p>地域包括ケアシステムを展開する中で、何か新しい産業やサービスの展開があり得るかを検討するためであれば、地域包括ケアシステムの先進事例を学ぶとよいかもしれない。世田谷区や柏市で先進的な取組が始まっており、特に世田谷区では地区ごとに核（拠点）を作って地域包括ケアを行っており、新しいサービスが展開されていると聞く。そういう先進事例の担当者に電話ヒアリングするなどしてみてもよいかもしれない。</p>
委員	<p>今回策定するのは、所沢市の「産業」振興ビジョンなので、医療サービスは二次的な分野ではないか。医師会へのヒアリングは、時間があればやってもよいかもしれないが、必須ではないと思う。</p>
委員	<p>地域包括ケアシステムの中で新しいサービス産業の需要やモノづくりに対するニーズがあるのではないかと、地元の医師会ではその点に関して地域のニーズをつかんでいるのではないかと考え、事前の意見照会の際に医師会へのヒアリングを提案したが、何が何でもやってほしいということではない。商工会議所工業部会などほかの団体から何か今後の高齢化への対応や地域包括ケアシステムとの関わりに関して意見が出てきたら、（医師会へのヒアリングは）その時また考えるということでは良いのではないかと。</p>
委員	<p>医師会へのヒアリングはともかくとして、健康や美容に対する消費者ニーズについてはどこかで触れてほしい。健康・美容への関心の高まりは医療や福祉などでの新しいサービスにつながるため、事</p>

委員	<p>業者側のシーズばかりに着目するのではなく、消費者側のニーズについても把握しておくことも必要だろう。</p> <p>所沢市において新しい可能性のある産業のひとつに医療や健康という分野が入ってくるのであれば、医師会へのヒアリングも検討する意味が多少はあるかもしれない。</p>
委員長	<p>④その他</p> <p>その他、業界団体へのヒアリングに関して何かご意見があればご指摘いただきたい。</p>
委員	<p>(株)KADOKAWA が来ることを受け、関連分野（マンガやアニメなど）に取り組んでみようという事業所がどのくらいあるのかわからないが、各業界団体に対して「ニューウェーブ」の事例を聞くことで、そうした新しい取組への芽がどの程度出ているのかが把握できるのではないか。</p>
事務局	<p>現在の COOL JAPAN FOREST 構想では、拠点施設となる「ところざわサクラタウン」は図書館や博物館、美術館などの文化コンプレックスとして整備する予定である。また、本年8月には、(株)KADOKAWA が中心となって「一般社団法人アニメツーリズム協会」が設立された。COOL JAPAN FOREST 構想を日本のアニメツーリズム発信基地の一番地と位置づけ（ゼロ番地は成田/羽田空港）、所沢市と全国のアニメ聖地 88 ヶ所をつなげることで、所沢市から全国各地の聖地へ行ってもらうようなプロジェクトを展開していこうとしている。</p>
委員長	<p>COOL JAPAN FOREST 構想は民間企業（株）KADOKAWA が主体的に進めているプロジェクトであり、行政が産業振興施策や地域づくりの面でうまく連携を図っていくことが重要であろう。</p>
委員	<p>4年後には東京オリンピックも控えている。COOL JAPAN FOREST 構想もそういう時機を捉え、もっと活用していくべきであろう。</p>
委員長	<p>次に、その他の資料（2-1～2-3）について、ご意見、ご質問等あれば自由にご指摘いただきたい。</p>

委員	<p>観光庁のデータでは、所沢市は県内で4番目か5番目に観光客が多いとされているが、そのうちどれくらいが市外から来た観光客なのかはわからない。観光庁による共通項目以外に、所沢市に市外からどれくらい人が訪れているのか、何を目的に来ているのかなどについて、市が独自に一度しっかり調査して把握しておいた方がいいのではないかと。この先、所沢市が本気で観光振興を図っていくつもりであれば、現況に係る統計をきちんと取り続け、それを広く市民全体に示し、市民に、所沢市にとって観光産業は重要な産業であるという認識を持ってもらうことが大切ではないかと。</p> <p>また、異業種連携を図るにしても、各業界の人たち同士だけでは新しいイノベーションはなかなか生み出せないものである。逆に工業や商業に直接的にはかかわりのない人が何気なく出したアイデアが新しい商品・サービスのヒントになることも多い。そのためにも、産業振興に向けた取組に一人でも多くの市民を巻き込めるような仕組みづくりが必要ではないかと。5年後10年後を見据え、市全体で継続的に産業振興に取り組む体制を作ることで、ノウハウの蓄積と人材の育成を図っていくことが重要ではないかと。</p>
委員長	<p>観光振興を図るためには、まずニーズをしっかりと把握することが重要である。それと同時に、市民にも観光地としての市の魅力や市へのニーズの高さをPRし、全市をあげて観光産業を盛り上げていくことが重要である。RESASには観光関連のデータも収録されているらしいので、そうしたものも活用したらどうか。</p>
委員	<p>確かにRESASには観光関連のデータがいろいろ掲載されている。市でもすでにRESASを活用した分析は行っていると聞いている。</p>
委員	<p>産業振興ビジョンにはぜひ「技術」の重要性という視点を入れてほしい。ドイツで展開されているIoTを基盤とした製造業改革の国家プロジェクト「インダストリー4.0」（第四次産業革命）に対し、日本の製造業が強みを発揮していくためには、改めて日本のものづくりの技術力の高さを再評価し、IoTやICT、ロボット、人工知能といったニューウェーブにうまく乗っていくことが重要である。特に所沢市の場合、マンガやアニメといった世界市場で強いコンテンツの立地が予定されていることから、これらと既存の製造業の技術力を組合せ、さらに商業やサービス産業とうまく連携することで新</p>

	<p>たなサービスにつなげていくことができるだろう。もしかしたらその分野でのプラットフォームになれる可能性もある。「技術力」に着目した戦略をビジョンの中にきちんと位置付けることが重要である。</p> <p>その際、市民をいかにその中に取り込んでいくか、推進体制をどう構築していくかが大切であり、コーディネートだけでなくミッション（戦略）を持つ「プロデューサー人材」を各団体の中から掘り起こし、グループを作り、活用していくべきである。</p> <p>プロデューサー人材の発掘と組織化は、ビジョン策定と同時並行で進めるくらいのスピード感をもって取り組む必要がある。ビジョン策定の検討段階からプロデューサーチームに参画してもらうことができれば、政策の立案と実行によりスピードが出る。彼らがうまく動ける仕組みを構築することが重要ではないか。</p>
委員長	<p>国の産業政策との整合性を図り、日本が今後より成長していける分野、期待されている分野については、所沢市の産業振興ビジョンにおいても着目していくべきというご指摘であろう。</p> <p>また、基礎自治体が行う産業振興施策においては、「プロデューサー人材」を発掘し、その人材を中心に事業者同士を結び付けていくことは極めて重要である。「プロデューサー人材」の発掘と組織化はリーディングプロジェクトに位置付けるなどして特に推進していくことが必要ではないか。</p> <p>また、推進体制についても指摘があったが、産業振興ビジョンでは、産業振興に向けた取組を実行するための組織体制についても当然言及することになると考えている。</p>
委員	<p>「所沢市の産業活性化に向けた有効な施策を検討する」という本委員会の目的に立ち返って議論するべきではないか。国の政策や一般論とすり合わせても意味がない。</p> <p>所沢市の特徴は都市型産業であるという点に尽きる。その前提で必要な施策を検討するべきである。都市型産業の優位性は商業でしか発揮されず、工業にとっては（地価が高いなど）決して優位にならない。一般論で都市型の工業の優位性を述べても意味がない。</p> <p>今回のアンケートも質問項目はごく一般的なものであり、これで把握できるのは一般論でしかない。工業にしても、製造業と加工業とで別々に調査しないと真のニーズは見えてこないし、観光業も商</p>

<p>委員長</p>	<p>業の一部として捉えるのではなく、ひとつの分野の柱として捉えるべきである。本当に市内事業所の実態を知りたいなら、アンケートだけではなく、個別ヒアリングなどで丁寧に調査し、裏付けをとることが必要ではないか。</p> <p>アンケートは最も基本的な事業所の概況、状況を把握するためのものとして捉え、活用すればよいのではないか。具体的な施策ニーズを把握するためには、市としてはこういう方向性を考えているがいかがか、というように、行政側が仮説を提示して意見を聞く必要があるだろう。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートの結果から市が抱えている課題が見える。小規模事業所が多数を占める中で、市として何を優先的に取り組んでいくべきかは、当然ビジョンに盛り込んでいく必要がある。</p> <p>また、私自身は、アンケート調査＋ヒアリング調査という手法は有効だと思う。ヒアリングの中からいかにニーズを拾うかがポイントになるだろう。ただし、ニーズに的確に対応していくことがカギとなる商業と、ニーズを生み出していくところから勝負となる観光業とは、分けて捉えるべきではないか。</p> <p>農業に関しては、いかに付加価値の高い作物を生産・販売していくかが重要であり、そのためには相談できる体制やプロデュースが必要となる。</p> <p>COOL JAPAN FOREST 構想はこれからの市の産業振興にとって大きなプロジェクトであるが、そのことを市民がどれだけ理解しているのか。もっと周知を図るべきではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、COOL JAPAN FOREST 構想の建設予定地に視察に行ってきたが、完成予定図も掲示されていなかった。そういうところでも、構想についての市民へのアピールが足りないように感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>今回のアンケートの回収率は低いと思う。実際、事業所にはあちこちから似たようなアンケートがたくさん来ており、すべてに答える時間もないため、回答できていないケースが多いのではないか。</p> <p>集計結果を見ると売上高が小さい会社が多いことが分かる。そのためか、観光の重要性について当事者意識が低いように感じる。事業所自身が目を覚まさないといけない。</p>

	<p>COOL JAPAN FOREST 構想に関しては、確かに所沢駅前には駅前開発の完成予想図が掲示されているが、サクラタウンには掲示されていないので、やはり行政がもっと説明する必要があると思う。市民の認識とのギャップを感じる。</p> <p>今後は外国人をいかに取り込んでいくかが重要になるであろう。確かに外国人が多く流入することにより懸念される問題もあるが、プラスに捉え、外国人の持つネットワーク力を生かし、協調していくことが重要ではないか。</p> <p>とにかく地元企業に元気がないのが問題であるが、元気にするための特效薬はない。何か一つやれば解決するという問題ではなく、小さなことからでも何かに取り組んでいくことが大切である。そしてそうした事業所の取組を後押しするためのコーディネート体制、サポート体制が必要である。その点で、業界団体を集めた懇談会は今後もぜひ継続してほしい。年に何回か異業種の団体が集まる場が必要である。</p>
委員長	<p>事業所へのアンケートのやり方については、確かに今後は工夫する必要があるだろう。</p>
委員	<p>アンケート調査は現時点での市内事業所の立ち位置や現況を把握する上で極めて重要であったと思う。また業界団体を一堂に会した懇談会は今後も続けるべきであろう。</p> <p>そのうえで3点ほど指摘したい。</p> <p>まず、産業振興に向けた市の立ち位置が不明である。産業振興ビジョンに加え、施策を実行に移すためのアクションプランまで作るということだが、本当にプランを実現させる「やる気」はあるのか。まずは交流の場を作ることでそれぞれの企業・事業所の取組を支援するという「黒子」の役割に徹するのか、それともしっかり予算をつけて市の事業として率先して展開していくのか。市のスタンスをはっきりした方がよい。所沢市は立地条件の良さと自然の豊かさのバランスが取れているという点では優位性があるが、厳しい言い方をすれば、どれも「ほどほど」であり、オリジナリティに乏しく、「一流感」がない。バランスの良さは売りにできるので、それを広めるのは市の役割である。しかし一方で、様々な市の産業振興施策の周知度・利用度が極めて低いということがアンケート結果から見て取れる。支援施策が「絵に描いた餅」になっているということ</p>

	<p>ある。新たな産業振興ビジョンがこの二の舞にならないようにするためには、もっと情報提供や交流の場の充実を図ることが重要ではないか。</p> <p>2点目に、農業に関して、今後市としてブランド化を図るのであれば、まずは市内流通を充実させ地産地消を推進することが重要ではないか。そのために行政施策として実行できることとして、まずは学校給食で市内産の農産物を取り入れることから始めることも考えられるのではないか。</p> <p>3点目として、産業振興ビジョンには市民、事業所、行政の役割分担を盛り込んでもらいたい。施策の全体像を示すと同時に、それぞれの主体がどのようにかかわるのかを示すことが重要である。例えば、先ほどの学校給食の例でいえば、学校や家庭での食育の推進が市内農業の振興につながるといのように、ビジョンの将来像の実現に向け各主体の取組がどのように連携していくのかを盛り込むとよいのではないか。</p>
委員	<p>重要なのは言葉ではなく行動である。情報通信技術の進歩が産業を取り巻く状況を大きく変えている。小規模な事業所が多いという特性は、以前は弱みであったかもしれないが、情報化の進展により、逆にきめ細かいニーズに対応できるという強みに代わった。小規模事業所ゆえの特徴を活かせるチャンスであり、そのチャンスをどう与えるかが、市の産業振興施策において重要な視点となるのではないか。</p>
事務局	<p>議題（6）その他</p> <p>次回は平成 29 年 2 月 7 日（火）午前中を予定している。</p> <p>閉会</p>

以上